

## 御蔵島の生物季節観測

広瀬幸貴<sup>1)</sup>, 小木万布<sup>2)</sup>

1)日本気象友の会会員 〒100-1301 東京都御蔵島村

2)一般社団法人御蔵島観光協会 〒100-1301 東京都御蔵島村, [kogi@mikura-isle.com](mailto:kogi@mikura-isle.com)

### 諸言

生物季節観測は、気象庁が行っている、生物の動向で季節の移り変わりを調べる方法である。開花や発芽、紅葉、落葉日を記録する植物季節観測と、初見や初鳴き日を記録する動物季節観測がある。同じ生物の動向を定点観測する事によって、観測地点の季節変化の過去との比較や、他の地点との比較ができる。著者は1983年より35年間、毎年欠かさず初見や初鳴きを記録し続けてきた。本稿では、それらの記録をまとめて報告する。

### 方法

御蔵島村の里周辺において、ツバメの初見日、ウグイス、ツクツクボウシ、ヒグラシの初鳴き日は1983年から、ニイニイゼミとカッコウの代替種としてのホトトギスの初鳴き日は1990年から毎年記録した。

### 結果

ウグイスの初鳴き日は最早が1993年1月10日、最晩が1991年3月5日であった。平均観測日は、90年代は41日(2月10日)、2000年代は37.3日(2月6日)、2010年代は35.4日(2月4日)であった(図1)。ツバメの初見日は、最早が2007年3月10日、最晩が2015年4月21日であった。1983年からの平均初見日は、82.7日(3月22日)であった(図2)。ホトトギスの初鳴き日は、最早が2008年5月9日、最晩が1998年6月2日であった。1990年からの平均初鳴き日は138日(5月18日)であった(図3)。

ニイニイゼミの初鳴き日は最早が1998年5月29日、最晩が2015年7月12日であった。平均初鳴き日は、177.7日(6月26日)となった(図4)。ツクツクボウシの初鳴き日は最早が2004年6月14日、最晩が1993年7月11日であった。平均初鳴き日は、182.9日(7月1日)であった(図5)。ヒグラシの初鳴き日は最早が2004年6月20日、最晩が2012年7月14日であった。平均初鳴き日は、184.2日(7月3日)であった(図6)。

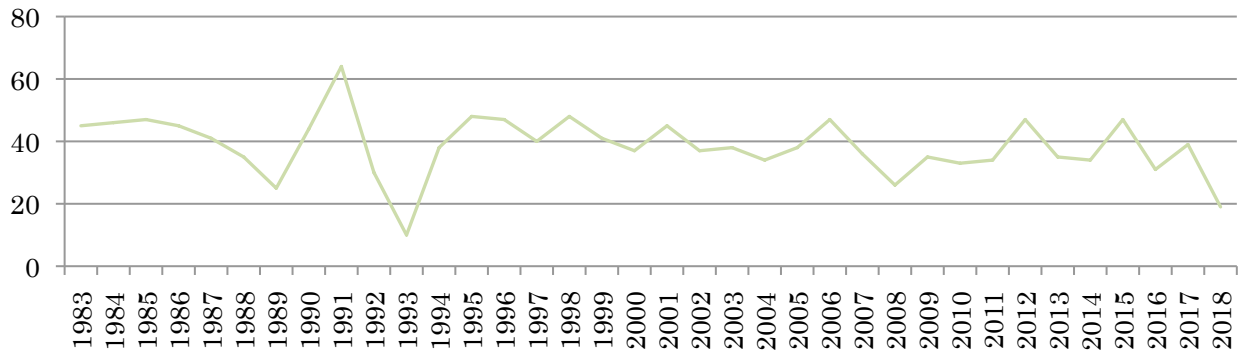


図1. 各年のウグイス初鳴き日  
横軸は年，縦軸は元日を1とした日数を示す（以下同じ）。

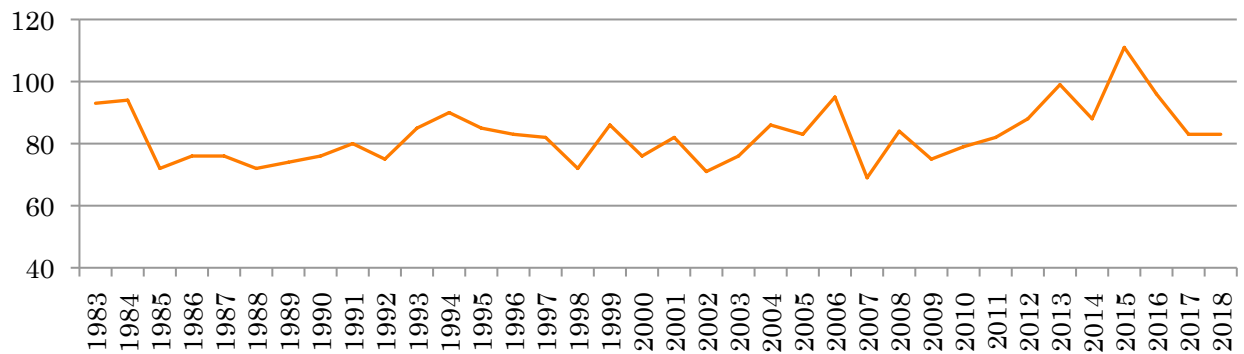


図2. 各年のツバメ初見日

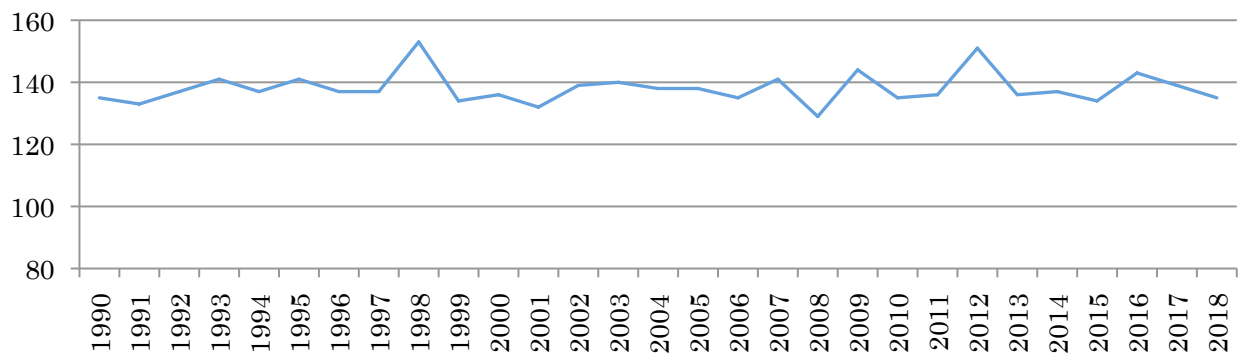


図3. 各年のホトトギス初鳴き日

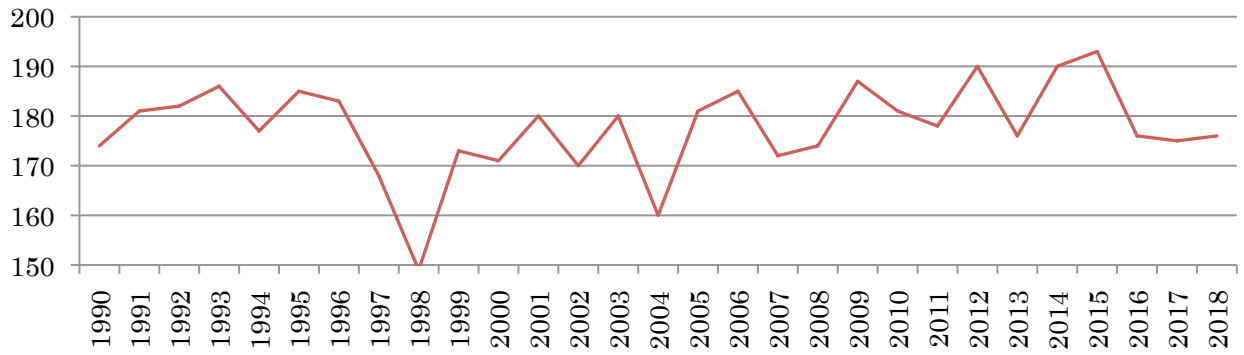


図4. 各年のニイニイゼミ初鳴き日

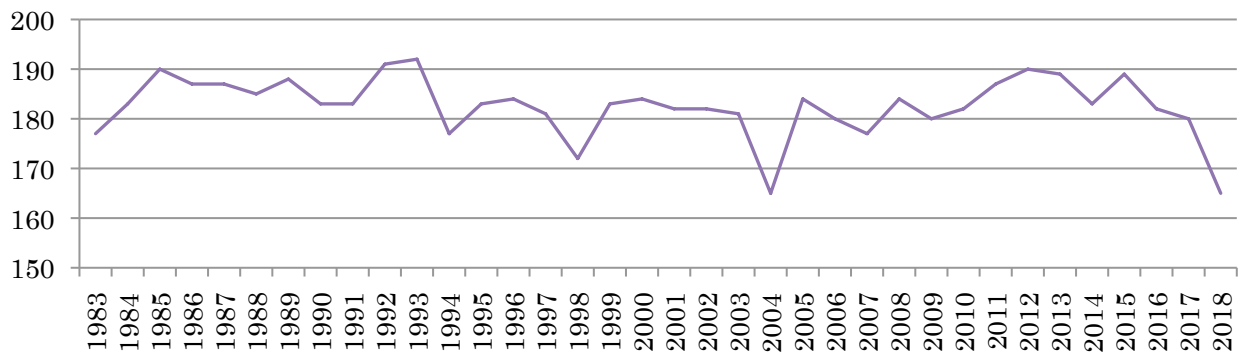


図5. 各年のツクツクボウシ初鳴き日

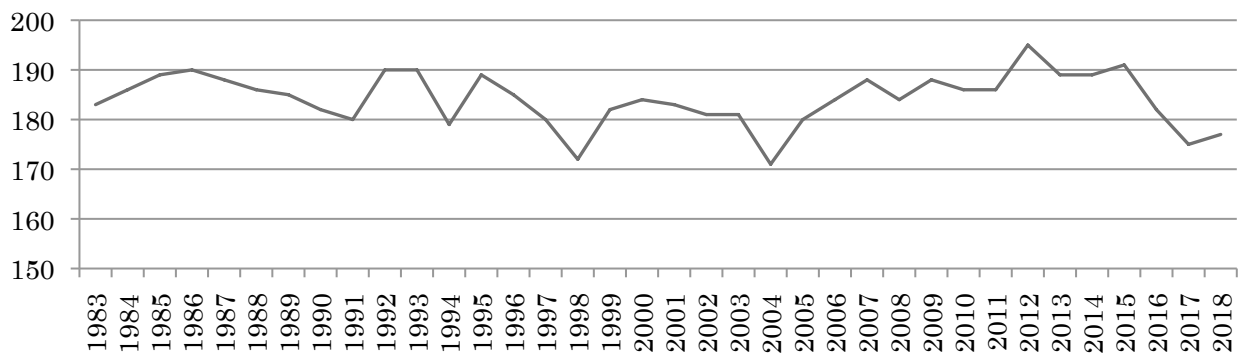


図6. 各年のヒグラシ初鳴き日

## 考察

鳥類の初見および初鳴き日は種間で関係性が無く、それぞれ独立しているように見える。ウグイスの初鳴きのみ、平均日が 90 年代から 2010 年代にむかって若干早期化したが、他種では、同様の傾向は見られなかった。セミ類は、鳥類に較べて初鳴き日のばらつきが見られた。また 1994 年、1998 年、2004 年など種を問わず同じタイミングで、隣あう年に比較して早期化が見られた。セミには、似たような発生時期決定機構があるのかもしれない。クマゼミの初鳴きに対する気温の影響が知られているように（初宿, 2007）、各年の平均気温や積算温度などのデータも合わせて検討すれば、今後、初鳴き日の予想が立てられるようになるかもしれない。

## 参考文献

初宿成彦. 2007. クマゼミ初鳴日の予想方法について. *Nature Study* 53(8): 2-3